

第7章

環境保全啓発活動

第7章 環境保全・啓発活動

—持続可能な社会を目指して—

高度な経済成長と共に私たちのライフスタイルが変わり、便利さや物質の豊かさなどを優先した結果から大量生産・大量消費・大量廃棄といった状況が生じています。これは地球温暖化や生物多様性といった地球規模の問題に繋がります。

自分たちの生活を見直すことが、結果として地球規模の問題解決に役立ちます。自家用車の使用・冷暖房の温度設定・待機電力などに気をつける・・・日常生活のなかで出来ることを無理せず力まず行う・・・継続して行うことが大切です。持続可能な社会に向けて“継続は力なり”

本市では持続可能な社会の実現に向け、市民への環境保全意識・活動の啓発等を実施しました。

こどもエコクラブの支援や環境教室・かたの環境講座の開催などの啓発・学習事業を展開するとともに、環境フェスタなど市民との協働の取り組みを推進しました。また、19年度より運用している環境マネジメントシステム（環境自治体スタンダード：LAS-E）により市役所の事務事業からの環境負荷を低減するよう取り組みました。

1. 環境教育

環境にやさしいくらしを啓発するため、以下の事業を実施しました。

(1) こどもエコクラブの支援

環境省が実施している「こどもエコクラブ事業」に基づき、市内のこどもエコクラブに対して、クラブ間の交流や活動の支援、情報の提供等を行いました。また、「エコロジカルとれーにんぐ」や各クラブが実施する「エコロジカルあくしょん」の報告を受け、その活動内容を確認しアースシールを発行しました。

登録クラブ 7クラブ（平成22年3月時点）

クラブ名	クラブ員数	サポーター数
スマイルエコクラブ	12人	6人
天の川クラブ	6人	1人
ひまわりエコクラブ	18人	6人
妙見坂小学校エコクラブ	13人	2人
たんぼぼエコクラブ	3人	3人
Mappall（マッパロ）エコクラブ	3人	1人

交野市こどもエコクラブ交流会

- ①「南星台ホテルの生態・自然観察」：ホテルの生態、自然の大切さや不思議さなど、自然環境を実際に体感してホテルが住める環境を整える方法、自然育成への考え方を学ぶことを目的としました。

実施日 平成21年6月10日（水）

場 所 南星台集会所

参加者 26名（サポーター含む）

- ②「夏休み“おがわ”の生き物観察会」：全国水生生物調査を兼ねて、身近な自然とふれあうことで、環境問題への関心を高めるとともに広く水環境保全の普及啓発を図ることを目的としました。

実施日 平成21年7月29日（水）

場 所 私市駅～尺治川上流～くろんど園地

参加者 21名（サポーター含む）

- ③「リサイクルでガラス細工を作ろう（施設見学・体験学習）」：生活の中で身近なゴミの分別とそのゴミの処理方法を学び、ゴミとして捨てられたビンのかけらを利用して作品を作成、資源の大切さを学ぶことを目的としました。

実施日 平成22年3月26日（金）
場 所 エコ・ポート長谷山（京都府城陽市）
参加者 19名（サポーター含む）

（2）夏休み環境教室

「日食の観察」と「簡単な太陽投影機作成」

日本で皆既日食となり、大阪でも80%以上となる日食の観察を行なった。夏休みに入る時期に、子ども達を中心とした観望会を開催することで、自然や科学への興味を喚起し、ひいては地球そして交野の環境の大切さに気づいてもらう事を目的としました。

実施日 平成21年7月22日（水）
場 所 私部グラウンド管理棟横 及び 管理棟2階会議室（観測機器の作成）

（3）かたの環境講座

温暖化を始めとする環境問題への対策には、市民一人一人の足元からの行動が必要ですが、その重要性を認識してもらうことが最も難しい課題でもあります。その課題にひとりでも多くの市民に気づき、行動して頂けるよう環境問題を広く啓発し、また、環境保全活動のリーダーとなる人材を育成することを目的として、かたの環境講座を5回開催しました。大阪市立大学理学部附属植物園の協力のもと、フィールド学習もふんだんに盛り込んだ講座を実施しました。

- 第1回 平成21年7月18日（土）10:00 から
「スパイダーウォッチング」
講師：追手門学院大学 西川 喜朗氏
受講者数 22名
- 第2回 平成21年8月21日（金）10:00 から
「森に秘められたチカラ」
講師：大阪市立大学 植松 千代美氏
受講者数 33名
- 第3回 平成21年10月18日（日）10:00 から
「地面に生きる虫たちの世界」
講師：龍谷大学 谷垣 岳人氏
受講者数 23名
- 第4回 平成21年11月14日（土）10:00 から
「どんぐりを通して知る、樹木のいろいろ」
講師：大阪市立大学 名波 哲氏
受講者数 25名
- 第5回 平成22年1月23日（土）10:00 から
「バード・ウォッチング」
講師：交野野鳥の会 平 研氏
受講者数 50名



2. 市民との協働の推進

(1)かたの環境ネットワーク

自然環境・暮らしの環境について活躍をする個人や団体が集まり、官・民相互の交流と支援・連携を深め、交野の環境保全活動をより活性化することを目的に平成17年5月に13団体と1個人によって発足しました。毎月1回の定例会を中心に、団体間の情報交流や文化祭等で環境保全をPRされています。

(2)環境フェスタin交野2010の開催

対策が急務となっている温暖化を始めとした地球環境問題、身近なゴミ問題、里地・里山保全など自然環境問題等について、環境フェスタの開催により広く市民に啓発し、また団体間の交流をはかり、地域からの行動を喚起することを目的とし、市民・団体・事業者・行政が一体となり開催しました。

テーマは「エコチャレンジ」と「ソーラエコっちゃ」とし、太陽光発電を身近なものとして感じてもらうイベントも行ないました。

日 時 平成22年2月28日（日）

場 所 星の里いわふね

参加者 約2,700名

3. 環境マネジメントシステムの構築・運用

すべての職員が、環境の視点を持ちながら業務に当たることを目指し、環境自治体会議のシンクタンクである環境政策研究所が、環境自治体と呼ぶにふさわしい自治体の目安として制定したLAS-E (Local Authority's Standard in Environment:環境自治体スタンダード)に沿った環境マネジメントシステムを構築し、19年6月より運用を開始しています。

各職場における省エネ・省資源行動の徹底や、職員への研修(集合、職場研修)の実施、環境情報の市民への公表などLAS-Eの規格に沿った取り組みを進めました。

また、LAS-Eの特徴の一つでもある市民による監査が実施され、判定委員会による取組の判定を受けました。

(1)市民監査及び判定結果

市民監査：平成21年11月17日・18日・19日

○共通実施項目監査

設問数 890問

対象部局 76部局 個別監査 市長他31名

監査員 37名(市民18名、市職員17名、専門家2名)

可否判定：平成21年12月28日

○LAS-E実施項目判定(共通実施項目判定)

判定事務手続き・資料作成、判定委員会召集・開催、所見の発行等

結果：エコアクション部門(環境活動) 第1ステージ 適正

エコマネジメント部門(環境経営) 第1ステージ 適正

エコガバナンス部門(環境自治) 第1ステージ 適正

(2)目標達成状況

LAS-Eでは取組を実施するだけでなく、数値目標を立てることも要求されています。

平成21年度の目標並びに結果は次のようになりました。

平成 21 年度 独自目標取組結果一覧

項目	H21 結果	基準年値	削減率	目標	結果
電気使用量 (kWh)	5,817,670	6,717,652 (H16)	13.4%	4.8%削減	○
ガソリン使用量 (ℓ)	48,584	51,727 (H16)	6.1%	4.8%削減	○
軽油使用量 (ℓ)	69,957	71,686 (H16)	2.4%	4.8%削減	×
灯油使用量 (ℓ)	184,689	197,322 (H16)	6.4%	4.8%削減	○
LPG 使用量 (kg)	31,027	42,030 (H16)	26.2%	4.8%削減	○
都市ガス使用量 (m ³)	86,880	125,014 (H16)	30.5%	4.8%削減	△
水使用量 (m ³)	119,229	156,041 (H16)	23.6%	4.0%削減	○
廃棄物の排出量 (袋)	41,930	41,314 (H20)	△1.5%	削減	×
コピー用紙 (購入量) (枚)	5,914,567	5,576,560 (H20)	△6.1%	削減	×
CO ₂ 換算温室効果ガス 排出量 (kg-CO ₂)	2,999,206	3,715,950 (H16)	19.3%	4.8%削減	○
職員研修の回数	6 種 10 回 実施	—	—	年 2 回以上 開催	○
実行責任者研修 の回数	11 種 6 回 実施	—	—	年 2 回以上 開催	○
環境に関する 情報の提供	年 6 回以上 提供	—	—	年 6 回以上 提供	○

4. 第 2 期交野市エコオフィス率先行動計画の推進

平成 13 年 3 月に交野市エコオフィス率先行動計画（第 1 期）を策定し、省エネルギー・省資源による温室効果ガスの削減や環境に配慮した事務・事業を推進し、平成 18 年度からは当初より変化した行政組織に対応する

ため、また、更なる環境に配慮した行動を進めるために「第 2 期交野市エコオフィス率先行動計画」を策定しました。第 2 期交野市エコオフィス率先行動計画は、平成 18 年度から平成 22 年度までを計画期間とし、平成 16 年度を基準にして平成 22 年度までに温室効果ガスを 6% 削減することを目標に定めています。また、計画の適用範囲は、市のすべての組織および施設を対象とし、関連する外部組織等も含み、市が行うすべての事務・事業を対象としています。平成 21 年度の結果は下記のとおりです。



平成 21 年度の取り組み結果

平成 21 年度取り組み目標	平成 21 年度取り組み結果	内 容
温室効果ガス排出量： 基準年比 4.8%削減	基準年比 20.9%削減 1,584,782kg-CO ₂ 削減	温室効果ガス排出原因の内、80%以上を占める電気使用量の削減によって、目標よりも大幅な削減を達成できました。
電気使用量： 基準年比 4.8%削減	基準年比 12.5%削減 2,081,845kwh 削減	各施設での省エネを徹底して行ったところ目標より大幅な削減を達成できました。
燃料の使用量 (ガソリン・軽油・灯油・ LPG・都市ガス)： 基準年比 4.8%削減	ガソリン：11.5%削減 軽油：2.0%削減 灯油：6.4%削減 LPG：26.3%削減 都市ガス：43.0%削減	各施設での冷房運転の調整、保健福祉施設でボイラーから家庭用給湯器へ設備転換がありました。
水の使用量： 基準年比 4%削減	基準年比 30.8%削減 80,190m ³ 削減	幼稚園の漏水改善。各施設のトイレで擬音装置の活用。

廃棄物の排出量	基準年比 16.0% 削減 8,018 袋 / 45 ㍓・袋削減	紙のリサイクル徹底やプラスチック容器の 分別などの取組みにより、事務室の多い施設 を中心に削減できました。
---------	-------------------------------------	---

5. 他自治体などとの協力・交流

環境自治体会議

平成 18 年度から加入した環境自治体会議（1992 年設立）は環境自治体会議をめざす自治体が、情報交換や相互交流、研究・実践活動を進める場として創られたネットワーク組織です。

第 17 回環境自治体会議「たじみ会議」に参加しました。

日 時	平成 21 年 5 月 27 日（水）～5 月 29 日（金）
場 所	岐阜県多治見市
内 容	5 月 27 日 基調講演「たじみ発：地域づくりの新たな途を求めて」 パネルディスカッション テーマ「地域のアツイ想いが地域をつくる！ ～ひとづくりが支える環境と経済～」 パネリスト 全国の環境自治体会議会員自治体首長
	5 月 28 日 9 つのテーマごとに分科会を実施
	5 月 29 日 分科会報告